2021年（令和3年）
第15号
（9月15日）

平安だより

HEIAN letter

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

コロナ禍における私の「生活即信仰」　～伏見支部　宮本晴代～

日々、み仏さまに見守って頂き感謝の日々をすごさせて頂いております。6 月 24 日にＳ家が教会御本尊様拝授のお手配を頂かれました。Ｓさんは 35 年前に佼成会に入会され、私の導き、第一号です。旧道場では文書や班長のお役を熱心にされてお導きも３家されました。徐々に教会を遠のかれ 30 年たちました。水子供養は今でもされています。

今年４月に 45 才の息子さんに癌が見つかり余命１年と告げられました。動揺され夜も眠れない程でした。息子の祈願供養をしてほしいと言ってこられ、病気平癒祈願を始めさせて頂きました。Ｓさんは「ご供養すると心が落ち着くわ」と言って頂き、少し安心しました。

石田支部長さんに報告させて頂きますと、「Ｓさんが、人さまにお伝えしてお導きできるといいですね」と言って頂きました。私は、心の中で「Ｓさんが布教やお導き、無理やわ」と思いましたが、支部長さんのご指導は幸せになって頂くための道すじと感じ、お伝えさせて頂きました。「友人には伝えているよ。息子も入会にしといて」と言って頂きました。

又、希望している病院の方位を見て頂きたいとお願いがあり、支部長さんにお願いしました。支部長さんはすぐに調べて下さり「吉方ですよ。ご先祖さまに守られておられますね」と返事を頂きました。Ｓさんは安心されました。

以前ご主人さんが足の病気で、有名な病院で診察を受けられましたが、2 ケ所とも足首の切断ということでした。当時の入江支部長さんに方位を見て頂かれ、吉方の個人病院での結果は通院治療で良くなられた体験をされていました。

今、息子さんはお蔭さまで、希望されていた病院の知人の先生方のプロジェクトチームを組んで頂かれ手厚く治療を受けておられます。そして、支部長さんのご指導で、Ｓさんは「黙読でもいいからお経を読んどき」と経典を息子さんに手渡しできました。「次はＳ家に教会御本尊をお迎えできるといいですね」と支部長さんから言って頂きました。支部長さんのお慈悲をお伝えせねばとお訪ねしました。

「教会御本尊様ってなに？」と言うＳさんに、私は「教会と同じご本尊さまが家に来られて両家のご先祖さまが守って下さいます」とお伝えし、娘宅のご本尊さまを写真にとり、ＬＩＮＥでＳさんに見て頂きたくて送信しました。Ｓさんは「あんまりわからへんけどした方がええんやったらするわ」と承諾して下さいました。

ご安置までに、申請書の提出、浄書して頂く、開眼供養、ご本尊さまを教会へお迎えに行かせて頂く、ご安置当日はご宝前を整えお役の方たちと黒服でご供養上げさせて頂く事をお伝えすると「たいそうやな」と何度か言われました。「たいそうにさせて頂くから値打ちがあるんです」と答えました。

当日をお迎えし、準備を進める中、「Ｓさんに言わなかったけど木鉦して頂くといいですねと支部長さんが希望されていましたわ」と伝えると、「黒服か？するで」と前向きな言葉を頂き、すぐに練習してお役を無事にされました。

もうびっくりでした。「総戒名様だけより、この方がええわ」と喜ばれました。ご宝前が明るくなり輝かしかったです。支部長さんは「ご先祖さまが喜んで下さり、心が清まります」と言って下さいました。

一週間後に教会へお礼のお参りに行かれました。祈願という行ないをしていなかったら、息子を失うという不安から気力を失い、どうなっていたかわからない。祈願文に望みを頂き、続けられていると毎日朝夕、真心こめてご供養を続けておられます。真剣に生きておられる姿に、私は、Ｓさんにより添い、お役に立ちたいと思います。ありがとうございました。

合掌

令和３年、私たちは「どこでも道場　祈り祈られ　笑顔と涙によりそおう」を実践して参ります。

京都教会のホームページが出来ました。https://rkk-kyoto.jp/